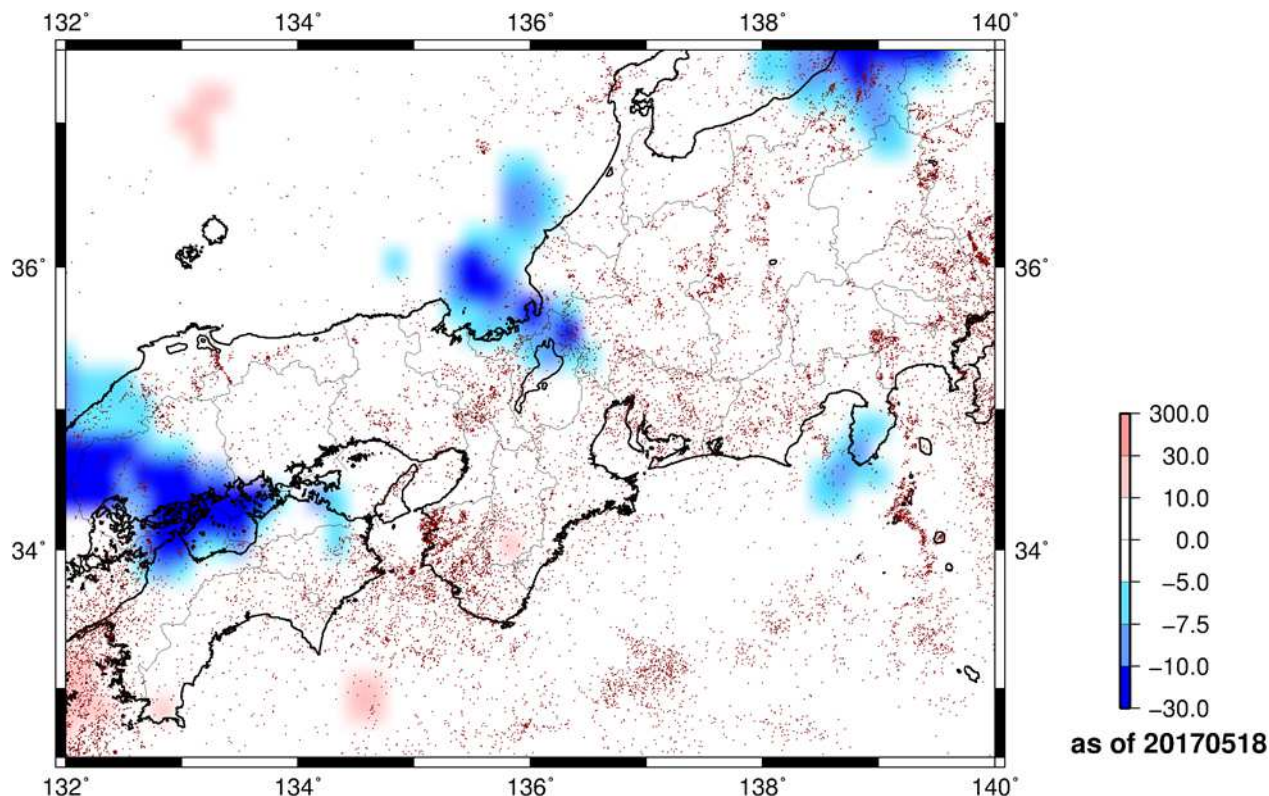


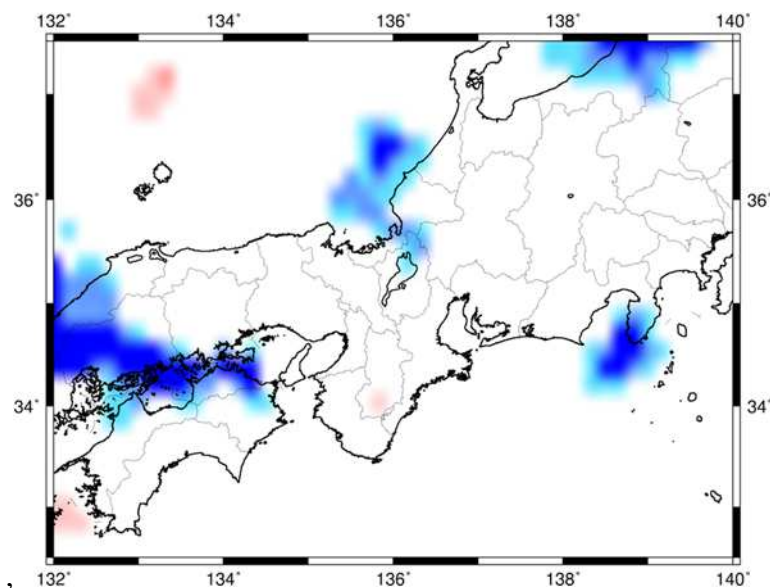


中部・近畿・中国・四国地方の地下天気図®解析

4月10日のニュースレターに引き続き、中部・近畿・中国・四国地方の5月18日時点の地下天気図です。この地下天気図解析は、2001年以降の16年間の地震データを使っています。従って比較的短期間で大きな変化をしにくいのが特徴です。



図中の小さな点は、今回の地下天気図解析に使用した地震（2000年-2017年5月）を図示したものです。地下天気図はある地域での平均的な地震活動のずれを表していますので、地震（図中の点）が多いところが赤くなる訳ではありません。4月の段階と比べて大局的な静穏化異常（青い領域）のパターンは変化していない事がわかりました。

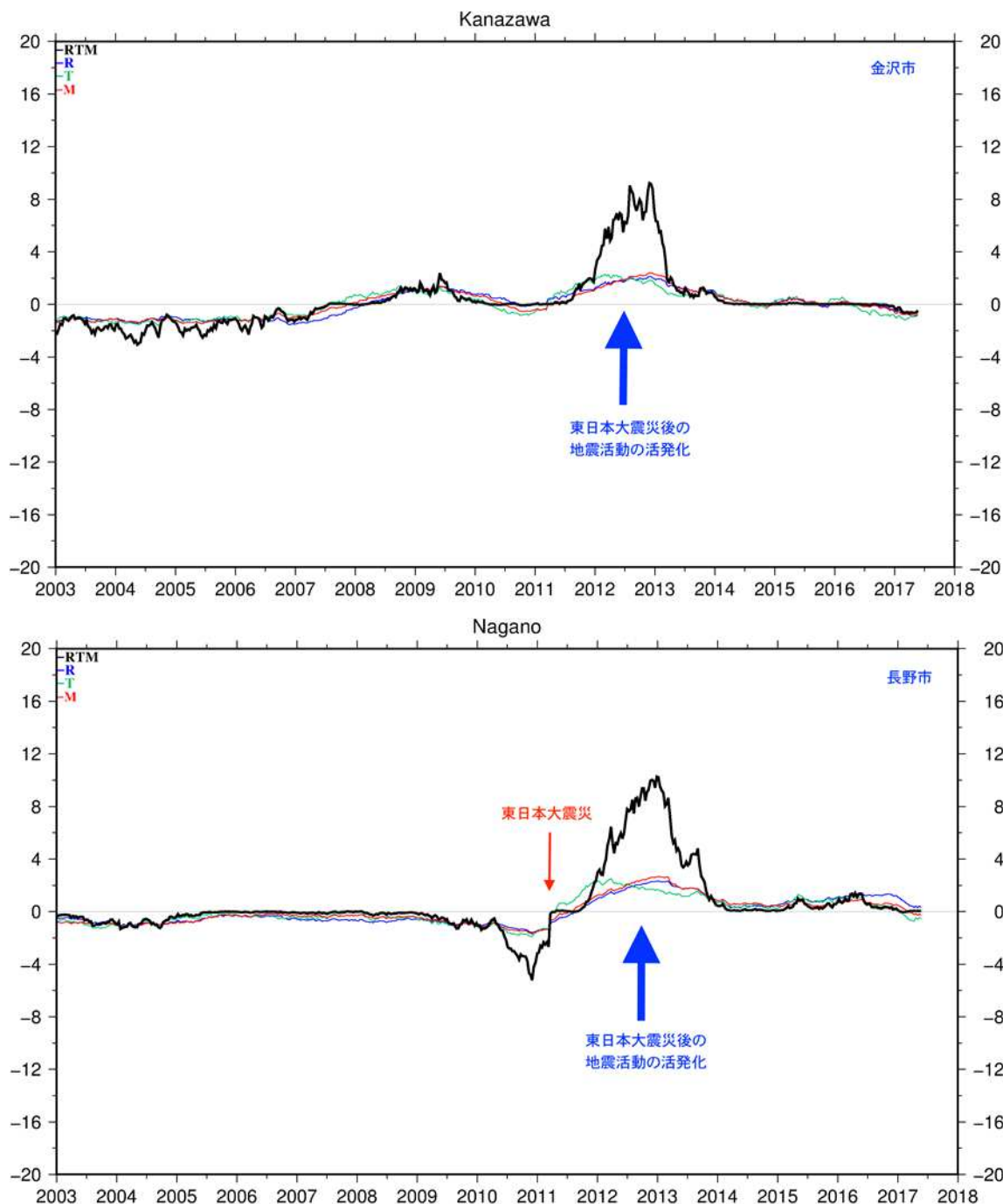


2017年4月7日時点の地下天気図（参考）



金沢市と長野市の地震活動(RTM 値)の推移

4月10日のニュースレターでは、名古屋市と静岡市の異常の時間変化（時系列データと言います）をお示ししましたが、今回は石川県金沢市と長野県長野市における時間変化をお示します。現状では異常はありません。



金沢、長野の両県庁所在地はここ2年以上地震活動静穏化の異常が無い事がわかりました。そして前回の静岡市の時系列グラフでも確認できますが、東日本大震災以降は、中部日本全域で地震活動が高まっていた事がわかります。